



## 第15回 移送サービス 研究協議会

三月二日(日)東京飯田橋セントラルプラザに於いて第十五回移送サービス研究協議会が開催されました。北海道から沖縄まで各地の移送サービス実施団体や行政担当者、事業者など約三〇〇人が集まりました。「さわやか」からは、河添博志氏と八幡事業所の山田が参加し、いきいき北九州から山田勲氏が参加しました。



また、移送サービスに対する道路運送法問題の法律上の整理に向けた作業が、国土交通省によって進められており、ボランティアによる送迎に対する、「ガイドライン」により、福祉車両の使用や、二種免許取得など、限定されるため「さわやか」の存続にもかかわってくる大事な問題でもあります。

### 「さわやか」副会長 山田浩美

私たち透析患者は、内部障害者と言われるています。目の見え

「利用したい人・利用してほしい人」につなげるために「移動困難者を理解する」この分科会では、まず、三つの事業所の方たちが、コーディネーターなどの立場から移動困難者にかかわる人々の事例を報告されました。その中で、千葉県の玄々堂 君津腎友会通院支援の会長齊藤親生さんは、「さわやか」と同じ透析患者の送迎事業をされています。

その後、参加者全員で「移動困難者とはどのような人か」というテーマで意見を出し合いました。視覚・聴覚障害者、車椅子利用者、妊婦さんや高齢者、過疎地など交通の手段

通院送迎事業に、携わる者として、改めて、「移動困難者」という、言葉の広さ、奥深さに考えさせられました。

### 分科会に参加して

ない方や、車椅子を利用していらっしゃる方たちに比べると、なかなか世間の方々には理解してもらえない部分があります。「見た目は元気そう」だと言われるのです。しかし、透析後の血圧低下や、倦怠感などは、「見た目」では解りません。それを理解してもらえないように努力して行かなければならないと言われました。

### いきいき北九州 山田勲

三月一、二日に「第十五回移送サービス研究協議会」が行われました。一日の出発日は管制塔のプログラムミスにより十七時三十分の飛行機が定刻に飛ぶかどうかの事、急遽一時間早く行ったところ、運良く一時間早い飛行機に乗ることができました。お陰で夕食にも間に合いました。

研修会では第一分科会の「医療と在宅を結ぶ移送サービスの可能性を探る」に参加しました。全国より五十数名の方で話し合いました。皆さんから出てくる質問は私ども「さわやか」でクリアしている事柄が多く、今さらながらトップを走っている感じがしました。パネラーの方も会社社長で自分の資金でボランティア活動をしている団

体という特殊なケースで、資金ぐりにあえいでいるところからみると羨ましい話でした。また、現状では、介護ヘルパーやボランティアが医療施設の現場に立ち入ることができない為、今後さらに、介護ヘルパー・ボランティアが活動しやすく、利用者が安心して通院できるようさらに頑張っていきたいと帰りの飛行機の中で決意しました。今後とも通院介護にご協力お願いいたします。

私は去年の六月に脳内出血で左半身マヒになりました。今まではバスに乗って透析病院に通院していましたが、今はまだバスに乗る事さえ出来ません。

この度「さわやか」さんにお世話になって早いもので半年が過ぎました。体半身がマヒになった時にどうやって通院しようかと考えていて、「さわやか」さんに相談すると、事務局の山田さんがすぐに手

続を下さいました。ボランティアさんも良い方で、私の車の乗り降りにも気をつけてくださいます。帰りには色々な話をし、いつも笑いながらながみながら送っていただいております。いつも励まされ、勇気づけられいい方達に出逢ったと喜んでおります。ボランティアの仕事も大変ですが私達のために頑張っておられ、感謝の一念です。

事務局の山田さんとは済生

会病院で知り合いになり、たまにしか逢わないのですが、逢えば明るくいつも変わらぬ笑顔で接してくれてとてもいい方です。

山田さんが明るいかから明るく

なったのでしよう。やっぱりいつでもどこでも明るく笑顔でいた方がとても感じがいいですよ。

ためにも頑張ってください。

# 会員さんより ご寄稿いただきました

小倉南区 坪根 春夫

いつの時代でも世の中、騒々しいものですが、特に昨今の世情は、先ず、心身異常幻覚による無差別加害・殺人などの凶悪犯、又テロの如き理不尽な犯罪の横行などメディアから伝えられ、一方次に叫ばれるのが自己中心主義思想のはびこる時代、私は西欧のある格言を思い出しました。それは「自分の不幸については我慢できないが、他人の不幸は平気で知らん顔をしていられる」と言う意味の言葉でし

た。これは真に人心をうがった言葉だと思います。然しボランティアの方々はこの諺の心をのり越えて善意に満ち溢れ優しく対応して下さることが誠に嬉しく、お世話を戴いている本人もお陰様で以前に比べ帰宅後の不調を訴えずよるこんであります。

理を無償奉仕しています（理由は企業の収益性不良による人件費削減のため）が、そのことが日常かなり心身と時間の負担となっており、故に時々心の迷いが生じ、短い人生の中で時間のロスを感じて阿呆らしく憤りさえ感じることがあります。また気分転換を

おります。これは私のみならずボランティアの方々もときにはそんな気分になられることもあるでしょうが、めげずひるまず前向きにチャレンジして戴いている事を礼讃感謝しております。不肖私も皆さんのお世話になる事態が目前に迫っております故、そのときは宜しく！

## 編集後記

このたび、社団法人西日本新聞社民生事業団様より、パソコン二台のご寄付をいただきましたのでご紹介させていただきます、改めましてお礼申し上げます。同時にEメールを開設いたしましたので、これまで以上に情報をお寄せくださいますようお願いいたします。アドレスは左記のとおりです。

小倉事業所 sawayakokura@violin.ocn.ne.jp ↓



↑ 八幡事業所 sawayaka@eagle.ocn.ne.jp